

「旅行業部門の今後の方向性」に関する

申21号 解明申し入れ(その2) 交渉を行う②

5. 店舗閉鎖後のお座敷列車や大口の団体に対する販売促進割引の取り扱いについて明らかにすること。

- ・ 団体乗車券の取扱いは専門性が高く、出札で取り扱っている箇所とそうでない箇所もあることから、駅で取り扱うのか検討していく。
- ・ お座敷列車や大口の団体の需要はかなり少ないが、びゅうトラベルサービスの法人営業部で取り扱うこととなる。

6. オンライン商品の対応・案内を行う箇所を明らかにすること。また、列車遅延等で行程通りの旅行が出来ない場合の取り扱いについて明らかにすること。

- ・ オンライン商品の対応はオンライン販売サポートデスクでの対応となる。
- ・ サポートデスクが営業時間外の場合は、営業時間内にかけて直しをしていただく。
- ・ ㊦の取り扱いで駅に問い合わせがある現状は理解している。オンラインにシフトしていくのでサポートデスクの体制強化もおこなっていく。

7. 店舗販売を行わなくなるが、大人の休日倶楽部やジパング倶楽部のお客さまの対応について明らかにすること。また、大人の休日倶楽部の即日入会の取扱いは行うのか明らかにすること。

- ・ オンライン商品を利用しやすくし、シニア層にも利用していただくことを目指していく。
- ・ ジパング倶楽部のシステム化は JR6 社の関係もあるので難しいが、大人の休日倶楽部はすでにインターネットで会員申し込みはできる。新規申し込みの3割はインターネット。
- ・ 大人の休日倶楽部の即日入会については、インターネットでの申し込みや商品形態を含めて検討していく。

8. 旅行業部門で働いている組合員の異動箇所の考え方を明らかにすること。

- ・ 限定的にどこは示せない。本体で旅行業として今後も働くとすると、現業機関のびゅうプラザは今年度末までで閉鎖となるので、企画部門になる。出向して VTS（顧客接点型拠点含む）で働くことも選択肢の一つである。
- ・ 育児や介護などの事情についてはコミュニケーションを取りながら対応していきたい。

組合：旅行業として、これまで収益確保のために努力をしてきた組合員、社員にとってどれだけ納得感を持ってもらえるのかが重要だ。環境の変化によって働き方が変わる中、意欲、働きがいを持てる施策にすべきだ。お客さまにとっても納得感と理解を得られて利用してもらえないようにしないといけない。今後、基本要求进行していき。職場の現実を踏まえて議論をしていきたい。

会社：3月に提案して以降、議論をしてきている。一人ひとりの働き方など、前広に選択肢を示してコミュニケーションをとっていかなければならない。検討中のところもあるが、やるべきことは進めつつ、息の長い施策なので、建設的な議論を今後もしていきたい。

不安を払拭し、働きがいを創出するために、精力的に議論を行っていきます！！